

## 学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成28年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立所沢高等学校		Bグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	建学の精神に立ち返り、高い理想を掲げた学校像である。今後は創立120周年を契機に学校に寄せられる期待に十分応え、現在の学校の特色や強みを生かした新たな学校像を検討できると更に良い。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	目指す学校像を踏まえ、学校の取り組むべき方向が三つの柱として設定されている。保護者・地域などの期待や生徒の実態を踏まえ、これまでの取組の成果と課題を詳細に分析し、中期的視点から新たな目標の設定を検討することが望まれる。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	学校評価委員会を中心に分掌・学年等が連携しながらシートを作成し、目標達成を目指す体制が整えられている。評価項目が、年度達成目標としては抽象的で分かりにくいので、具体的な行動を示す表現にするなど、保護者や地域住民などの学校関係者が一層理解を深め、参画できるよう工夫していただきたい。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	朝読書や「新書レポート」、「KIZUNA活動（地域・小中学校との交流活動）」、地域清掃、タイムリーなホームページの更新等、組織的・計画的な取組が増えてきて、成果も上がっている。評価指標は定量的で分かりやすく設定されているが、方策がやや抽象的な表現となっているので、より具体的なものにすると良い。	
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長は普段から頻繁に自ら足を運ぶなど教職員とのコミュニケーションを大事にしており、学校評価委員会・職員会議において、学校の課題等に関する教職員の共通理解を図っている。校長のリーダーシップが的確に発揮され、シート作成に関して計画的に十分な時間をかけて次年度への課題の取りまとめや方針策定を行うなど、学校評価委員会が適切に機能しており、教職員全体で組織的な優れた取組を展開している。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	生徒を対象に授業や進路等に関するアンケートを実施し、学校自己評価のための情報が収集されている。前年度の達成状況の検証を適切に行った上で、達成度の高い評価項目については方策や評価項目自体の見直しを検討し、次年度の取組につなげるなどしてスパイラルアップを図るようにしていただきたい。	
特記事項			